

令和 8 年度
すくわくプログラム活動報告書

(実施対象：3 歳児クラス)

モニカ茗荷谷駅前園



テーマ

自然とわたし

設定理由

自分の思いや要求を強く表出する姿が見られる一方で、友だちとの思いの違いや受け入れることの難しさからトラブルになることや、相手の気持ちに気づくことが難しい姿も見られる。

そこで、昨年度から興味を持っている土粘土という一つの素材を通して、友だちと同じ場で試したりつくったりする経験をする中で、互いの存在や考えに触れ、協働的に関わる基礎を育みたいと考え、このテーマを設定した。

対象クラス

3歳児クラス・10名

活動のねらい

友だちと共通の場や素材に関わりながら、一緒に試したりつくったりする経験を重ね、協働的に関わる基礎を育む。

キーワード

「どんな感じがする？」「重たいね」
「どうする？」「どうしてみたい？」

活動期間

令和8年6月～令和8年9月

活動回数

計4回

活動①

土粘土に出会う。友だちと一緒に感じる。

準備物

土粘土 | 土粘土用シート | スモック | 汚れてもよい服 | 靴箱隠し用の白布 | タライ | 水 | ケース

環境構成

場所：エントランス

日時：6月15日(月)、予備日6月16日(火)

9:45～10:15、10:30～10:45

3～4人1グループ 30分ずつ

※子どもたちの様子によって調節する

エントランスの落ち着いた空間の中で、子ども1グループ3～4人、保育者3～4人で行う。

土粘土(長方体のもの、踏んで平らにしたもの)を用意し、全身を使って感触を味わえるように設定する。

活動内容

- ①環境について問いかけながら話し合いをする。
- ②土粘土に自由に触れる。
- ③重い土粘土を移動させるにはどうしたらよいか考える。
- ④振り返りをする。



繰り返し運ぶことで1人でも持てみたい気持ちが芽生える。

挑戦するが、難しく、

「てつだって」と友だちに助けを求めている。

掛け声を掛けながら、いざ持ち上がると、

「あっちに行こう」と土粘土を移動させようとし、

「よいしょよいしょ」「せーの」と声を掛けながら力を合わせ、

「まんなかにおきたい」と思考を巡らせていた。

塊に乗れるかという思考になり、

「乗れないんじゃない?」「高すぎる」

「クレーン車があれば運べるかも」と

日常での経験や知識から想像を膨らませていた。

大きな塊は「重たい」。

2人で動かしてみるとひっくり返り、

3人で動かしてみると動いた。

再度、持ち上げることに挑戦する友だちの姿を見て

「〇〇くん、あっち手伝ってあげようか」と

友だちの姿から感じ取り一緒に行く意識が芽生えているようだった。

土粘土をちぎって投げ、

反対側の土粘土までの渡り橋をつくる子どもたち。

どうやったら持てるのか考えながら

「がががってこわす」「われたらはこべるかも」

と、どうしたら重い土粘土を運べるか考えて言葉にしていた。

「〇〇ちゃん手伝ってくれない?」と友だちにも声を掛けていた。



振り返り

- 子どもたちの活動中に、保育者の問いかけや誘導などの言葉数が多いように感じ、2回目以降は子どもの姿を見たり、子どもの言葉をより多く拾って記録したりしながら、気を付けて活動を行った。
- グループによって様々な思考が生まれ、普段では様々なものに興味に移る子も、落ち着いた環境の中で一つの土粘土という素材や活動に集中して取り組んでいる子が多かった。

活動②

土粘土との関わりを深める。友だちと同一の目的をもって触れる。

問 い

「どんな形？」「どうする？」「どうしてみたい？」「どうやったらできるかな？」

準備物

土粘土 | 土粘土用シート | スモック | 汚れてもよい服 | 靴箱隠し用の白布 | タライ | 水
足拭き用雑巾 | ケース

環境構成

場所：エントランス

日時：7月17日(金)、予備日7月22日(水)

9:45～10:15、10:30～10:45

3～4人1グループ 30分ずつ

※子どもたちの様子によって調節する

エントランスの落ち着いた空間の中で、子ども1グループ3～4人、保育者3～4人で行う。

土粘土(10kgの球体と20kgの球体)を用意し、全身を使って土粘土に関われる環境を設定する。

活動内容

- ①環境について前回との違いに気付く。
- ②土粘土に自由に触れる。
- ③友だちと共通の目的をもって土粘土に関わろうとする。
- ④振り返りをする。



環境を見て、前回との形の違いや大きさの違いに気付いていた。

前回の活動内容を受けて、まず土粘土の塊を持ち上げようとする姿があった。

一人が小さい方の塊を持ち上げようとするやと転がり、それを見て他児も一緒になって転がして動かしていた。



転がしながら、二つの土粘土の塊を重ねたいという思考が生まれる。友だちに「手伝って」と思いを発信し協働する姿があった。

小さい球体を持ち上がると

次は大きな球体を持ち上げたいという思いが芽生えるが、3人で力を合わせても持ち上げるのは難しかった。

重くて持ち上がらない際に「かるくしよう」と粘土を千切って小さくしようとしたり粘土を潰してみたりする姿があった。



球体が潰れたり重なることで、上に乗ってみたいという発想も出てきた。

友だちと一人ずつ交代で乗ったり

友だちと一緒に乗ったりする姿があった。



振り返り

- 前回より子どもたちの言葉が増えていた。言葉が増えたことで、それぞれの思いが共鳴したりぶつかったりしながら、グループによって異なる展開で活動が進んでいった。
- 前回の経験が活かされ、子どもたちから「てつだって」と友だちに声をかけて一緒に取り組もうとする姿がよく見られた。土粘土を転がしたり、持ち上げたり、潰したり、上に乗ったりとグループによってそれぞれ違いはあったが、友だちと共通の目的をもって一緒に土粘土に関わる姿があった。
- 前回とグループを変えたことで前回より活発な姿が見られた園児もいたが、子どもたち同士の協働的な取り組みが少ないグループもあった。次回はまたグループを変えて子どもたち同士の関わりを広げていきたい。

活動③

縦に大きな土粘土と斜めになった土粘土に触れる。

問 い

「不思議な形だね」「どうしてみたい?」「どうやったらできるかな?」「どうしてみる?」

準備物

土粘土 | 土粘土用シート | スモック | 汚れてもよい服 | 靴箱隠し用の白布
タライ | 水 | 足拭き用雑巾 | ケース

環境構成

場所：エントランス

日時：8月17日(月)、予備日8月18日(火)

9:45～10:15、10:30～10:45

3～4人1グループ 30分ずつ

※子どもたちの様子によって調節する

エントランスの落ち着いた空間の中で、子ども1グループ3～4人、保育者3～4人で行う。2種類の土粘土(縦に積み重ねた土粘土にもう一つの土粘土を斜めに添えた土粘土、長方体の土粘土)を用意し、全身を使って感触を味わい試行しながら活動できるように設定する。

活動内容

- ①環境について問いかけながら話し合いをする。
- ②土粘土に自由に触れる。
- ③土粘土をどうしたいか言葉にしながら友だちと共有する。
- ④振り返りをする。



活動の始めには、土粘土の数や形の変化に気付き、
これまでの活動と比べながら環境を捉える姿も見られた。

土粘土に触れる中では、
一人では動かすことが難しい重さに気付き、
友だちを誘って一緒に持ち上げたり、
向きを変えたりしながら繰り返していた。
また、自分の遊びを進める中で、
友だちの遊びに興味を持ち、一緒に運んだり、
友だちの動きを真似したりする姿が見られた。

一方で、同じ土粘土を使いたい思いがぶつかり、
自分の思いを優先したり、
友だちからの働きかけに応じられなかったり
する様子もあった。

土粘土を動かす、潰す、重ねる、繋げるなど、
友だちと試行錯誤を繰り返す中で、
滑り台や階段、平均台、橋など、
子どもたちなりのイメージが生まれ、
遊びが変化していった。

友だちの思いつきを受け止めて一緒に試したり、
難しい場面では助けを求めたり、
友だちの挑戦を応援したりする姿も見られた。

それぞれが異なる思いを持ちながらも、
共通の土粘土に関わり続けることで、
友だちの存在を意識し、
少しずつ遊びや思いを共有していくような姿があった。



振り返り

- 3グループそれぞれが個性にあふれた遊び方や土粘土に対しての働きかけをしていた。
- 3つの土粘土があることで1人1つの土粘土で遊ぼうとする姿があり、協働とは離れるような形になりそうなことがあった。
- 自分の思いを強く持つグループや、言葉よりも行動で示すグループなど様々だったため、またグループも見直していく。

活動④

縦に大きなひとつの土粘土の塊に触れる。

問 い

「どうしたい？」「どのくらい重い？」「どこを持ったらいいかな？」

準備物

土粘土 | 土粘土用シート | スモック | 汚れてもよい服 | 靴箱隠し用の白布
タライ | 水 | 足拭き用雑巾 | ケース

環境構成

場所：エントランス

日時：9月8日(火)、9月9日(水)

9:30～10:10、10:00～10:30

3～4人1グループ 30分ずつ

※子どもたちの様子によって調節する

エントランスの落ち着いた空間の中で、子ども1グループ3～4人、保育者3～4人で行う。

約30kgの大きな土粘土の塊を用意し、全身を使って感触を味わい試行しながら活動できるように設定する。



活動内容

- ①環境について問いかけながら話し合いをする。
- ②土粘土に自由に触れる。
- ③土粘土をどうしたいか友だちと共有しながら遊ぶ。
- ④振り返りをする。

始めに前回との違いについて問いかけると粘土の数や大きさが変化したことに気付いていた。大きな粘土の塊を見て、上に乗ってみたいと思う園児の姿が多かった。

上に登った際には「ぼくも乗りたい」など気持ちを伝える姿や、周りの園児の姿に気付き「つぎこうたいだよ」と友だちと声を掛け合い順番に登る姿があった。



重くて持ち上げることは難しいが、全員で一つの粘土に向かい力かけることで粘土を倒すことができた。

粘土をちぎり取り、小さい粘土なら持てると気づき、大きな塊を小さくしてみようとする姿もあった。



また、縦長の土粘土を倒すと乗れる面積が大きくなり、2人で乗っていた。

ジャンプをして潰すと更に乗れる面積が大きくなるということに気づき、友だちと交代で数えながらジャンプし土粘土を潰して3人で乗ることができた。



振り返り

- 土粘土をひとつの塊にしたことで、子どもたちの活動の場が一か所になり子どもたち同士の関わりあいが増え、一緒に取り組もうとする姿がより見られた。
- 粘土はとても重く、保育者が手伝っても持ち上げることは難しかったため、転がし動かしたりする姿はあったものの、どのグループも倒す、乗る、潰す、などこれまでの活動の内容を受けた土粘土への関わりが中心になっていた。
- 前回とグループを替えたことで、子どもたちの発言が増え、積極的に友だちと言葉を交わしながら遊びを展開していく姿が見られ、協働的な関わりの基礎が育まれている様子が伺えた。

活動① 土粘土に出会う。友だちと一緒に感じる。



友だちと同じ遊びをしたり、興味を持って

関わったりする姿が増えている。

また、自分の思いや考えを言葉や行動で伝えようとしている。

このような姿から、共通の場や素材を通して、友だちと試したり

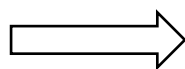
考えたりする経験を重ね、互いの考えや気づきに触れ、

どうしたらみんなでのれる？

のれない。ふんだらどう？



みんな！
きて！



のれた！みんな、おちないように！

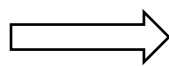
まんなかにあつまって！

おもたい。ひとりだともてないよ。てつだって。

てつだってあげようか？ セーの。よいしょよいしょ。



あっちに
いどうさせよう！



できた！こんどはあっちにもどそう！

もういっかいてつだって！

大きく重たい長方体と平らな土粘土を前に、子どもたちは「どうしたら持ち上げられるのか」を考えながら繰り返し試していた。

ひとりで持ち上げようと挑戦する姿や「てつだって」と友だちに助けを求める姿、友だちと声を掛け合いながら力を合わせる姿が

見られた。また、友だちの困っている様子に気づき「てつだってあげようか」と関わる姿もあり、共通の素材を介して、

互いの存在を意識し始めているように感じた。さらに「われたらはこべるかも」「クレーン車があればはこべるかも」など、

日常での経験や知識と結び付けながら方法を考え、自分なりのイメージを広げる姿も見られた。

土粘土という一つの素材が、試行錯誤する面白さだけでなく、友だちと考えを共有しながら、一緒に取り組む喜びに繋がっていくと感じた。

活動② 土粘土との関わりを深める。

R8.7.17 7.22

きりん組

友だちと同一の目的をもって触れる。



友だちと一緒にイメージを共有しながら遊んだり
「いれて」「いいよ」など気持ちを伝え合いながら
遊ぶ子どもたちの姿がよく見られている。
気持ちを伝え合う中で、思いがぶつかることもある。
今回の活動を通して、友だちと共通の目的に向かい
“ひとりではできないことも、力を合わせるとできた”
という経験をする中で、互いの良さを認め合う心が
育まれることをねらい環境を設定した。

持ち上げる

「てつだって」っていったら
てつだってくれた

みんなでもちあげたからできた



潰す



みんなでつぶしたから
まらくなった

つぶしたらかるくなった

転がす

3人でうごかしたからうごいた

おともだちが
てつだいにきてくれた



土粘土を小さい球体と大きい球体にし、並べて置いた。

子どもたちは「だんごだ」「たまご」「ゆきだるまつくろう」など形から土粘土への関わるイメージを広げていた。

やりたいことに挑戦する中で、一人では難しいこともあった。

そんな時には自然と「てつだって」という言葉を口に出し友だちや保育者に協力を求める姿があった。

友だちと力を合わせることで土粘土を転がして動かしたり、持ち上げて重ねたり、

上に乗ったり、様々なことを実現させていた。

一方で、子どもたちだけでは力が足りず土粘土が持ち上げられず「無理だ」と諦める姿もあった。

そんな時にはどうしたら持ち上がるだろうと思考し、実際に潰してみたり千切ったり試してみる姿があった。

試行錯誤することで、始めのイメージとは違ったが、土粘土が平らになりもう一つの土粘土の塊を上に乗せることができた。

土粘土への様々なアプローチがある中で、子どもたちから「友だちと一緒にやった」という言葉が出てきた。

しかし「持ち上げたいから手伝って」と友だちを集めるものの、すぐに目的が逸れていったり諦めたりする姿も見られた。

次回は、縦に大きな土粘土とそこに斜めに立てかけた土粘土を用意して活動する中で、

友だちと共通の目的に向かってどのように土粘土に関わる子どもたちの姿が見られるか楽しみだ。

活動③ 縦に大きな土粘土と斜めになった土粘土に触れる。



友だちと声を掛け合いながら、力を合わせて一つの物事に向かう姿が見られるようになってきている。

一方で、友だちの存在に興味をもちながらも自分の思いを強く表現し、個の遊びを展開する姿や

友だちと一緒に挑戦しようとするものの

途中で諦める姿も多く見られる。

今回は、土粘土をどうしたいかを

それぞれに言葉にしなが

土粘土を思わず動かしたくなるような形に設定し、友だちとの協働的な関わりに繋げていきたいと考えた。

「すべりだいをつくりたい」という

子どもたちの言葉が聞こえてきた。

ある園児が粘土の塊を持ち上げようとする姿があり、保育者が「持ち上げたいんだって」と周りの園児に知らせると、ヒーローになりきって友だちを助けたいという思いで手伝う姿があった。

保育者も手伝いながら土粘土が持ち上がると誇らしい表情があった。

ヒーローがてつだいにきたよ

スーパーヒーローちからもち！

どう、すごいでしょ



つぎ、おしりで
すべらない？

だいじょうぶ？
ぐらぐらしてるからね

がんばれ
あとちょっとだよ

土粘土の形を見て「いっしょにすべらない？」と友だちと誘い合って滑って遊んでいた。

もう一つの粘土を階段のようにくっつけたり、平らにして上に被せたり、友だちと協力して様々に形を変えながら、その都度友だちと一緒に繰り返し上を歩き、喜ぶ姿があった。

友だちの存在を意識し、心配する声掛けや応援の言葉も聞こえてきた。

歩き方を変えてみたり、ジャンプしたり、様々な遊び方に挑戦していた。

土粘土の形を見て、どのグループも滑り台を連想する姿があった。

「すべりだいをつくりたい」などそれぞれに思いを言葉にし、その言葉に他の園児も影響を受け、

同じ目的をもち一緒に土粘土を動かしていた。

互いの存在を意識し、言葉で気持ちを伝え合い、関わりながら遊ぶ姿が増えている。

今回は3つの土粘土の塊を用意し、2つ重ねたものと1つに分けて環境を設定していたため

3つの塊それぞれに分かれて活動する様子もあった。

次回も、友だちと思いを伝え合いながら共通の目的をもって土粘土に触れる子どもたちの姿が一層増えていくだろう。

活動④ 1つの大きな土粘土の塊に触れる。

R8.9.8 9.9

きりん組



これまで、様々な形や大きさの土粘土に
体 全体を使って触れてきた。
今回は大きな土粘土1つに焦点を当て、
落ち着いた空間の中で、少人数で触れて遊んだ。

おおきい

あっちにひっこしたい

みんなでのるためには

いっぱいつくったら
みんなのれるかも？



いいかんがえがある

ごみしゅうしゅうしゃだ

ごみしゅうしゅうしゃになって

みんなではこぼう

ばんをつくろう

つちねんどを、おいしくなーれってしてあっちにもっていく

はい！どうぞ！

もっとおもくしよう

こっちちぎってないから、もてないよ



たいらにしたら

みんなでのるかも

じゅんばんに

たいらにしよう

みんなでやったら

3にん、のれたよ！



共通の素材に触れ、同じ場で試行錯誤を重ねる中で、友だちの考えを受け入れたり、
誘い合ったり、難しい場で助け合ったりする姿が少しずつ生まれていた。

友だちと想いを一つにすることは、それぞれのやりたい気持ちを伝え合いながら、
試したり考えたりする過程で思いを重ねていくことのように感じた。

土粘土という共通の素材のもつ「重さ」や「大きさ」が、子ども同士が関わるきっかけとなり、
共に試行錯誤する姿へと繋がっていた。

全体の振り返り

- 活動の前の導入としてどのようなことを行ったか。
→昨年度から卓上で土粘土に触れていた。土粘土を生活の中の環境に置くことで自然と触れていた。
- 土粘土の量があることで、より全身を使って、みんなでひとつの物に触れている姿が感じられた。
- 土粘土を通して、五感を使い様々な発見をしているのが伝わってきた。
- 「潰すことで軽くなる」というアイデアは実際には軽くなったのか。子どもたちの反応はどうだったのか。
→「軽くなる」「軽くならなかった」と、両方の意見が出た。結論よりも、
潰すことを楽しむ方へ意識が向かっていた。
- グループ分けや土粘土の置き方に工夫が伝わってきた。どの回も次につながる展開になっていた。



株式会社モニカ

〒105-0004
東京都港区新橋1-9-5 KDX新橋駅前ビル3階
TEL:03-6661-2466
FAX:03-6661-2467

モニカ茗荷谷駅前園

〒112-0002
東京都文京区小石川5-3-2 エイト印刷ビル2階
TEL:03-5615-8798
FAX:03-5615-8799